

いよいよ冬休みがスタートしました。短い期間ではありますが楽しく過ごせるようにクッキングや色んな遊びができるようにとありますが、インフルエンザの流行も心配なところで、感染予防に努めたいと思います。

寒い天気になっても、「外に行ける？」と聞いてくる子ども達に苦笑いし、これは大人が鍛えられるなど気合いを入れ直しています。

ピアノの練習を毎日コツコツと進めています。本当に毎日の積み重ねだなと感じます。学童さんは、学校から帰ってきてからのわずかな時間しかないので、一度にたくさんの練習はなかなかできません。だからこそ、少しずつの積み重ねを大事にすると、弾けるところがつながってくるし、忘れることもないのです。

中には練習したくないなあ、今度すると言う子もいます。子ども達の心をのぞきながら、少しでも、「できた」「弾けるようになる」と嬉しい、楽しい」という体験を積み重ねていけたらと思っています。

また、まだか先生に合唱の曲を教えてもらい、とても子ども達の心をつかむ曲に出会いました。「世界一周」という曲です。今日初めて歌ったんですかと思うくらい、表情も歌声もよく、感動しました。色んな国の言葉が出てきてとっても楽しいです。動画で歌っている女の子は、歌声も身振り手振りも素敵で、思わずみんなが真似していました。これからもっと、楽しんで歌っていきたいです。もう一曲は「マイバラード」です。

保護者の皆様には、今年も大変お世話になりました。どうぞよいお年をお迎えください。来年もよろしく願います。

読解力とは

宿題をしていて、「分かりません」と言うので文章を読んであげるだけで「分かりました」ということがあります。こちらは何も教えていないのにです。読解力というところで調べてみるとこんな記事がありました。

ずっと「わからない」とうんうんうなっていた子が、設問を音読し始めると突然「わかった」と言いだし、設問を音読させると「あっ！」と声をあげて正解にたどり着いたりします。

何もしていないのに、設問を音読しただけで正解にたどり着くのです。音読をすることで、「今まで見えていなかったもの」が見えてくるのでしょう。正確に言えば、「それまで設問を見ていたが、読んでいなかった」のです。

ですから「見る」から「声に出して読む」に意識を切り替えさせることが重要です。しかし、ただお子さんに「しっかり読みなさい」と言ったところで、おそらく「読んでいるよ」と怒って応酬。親子バトルの原因になるかもしれません。そうならないようにするためにも、「音読する」という方法を取るということがいちばんです。音読をする以上は文章をしっかりと確認する必要がありますし、また、「音読する」というルールであれば「音読した・しない」の争いにはならないので、親子バトルにつながる可能性は激減するでしょう。

齋藤 達也『1日10分！「音読」で子どもの成績は必ず上がる！』より一部抜粋

学童でも音読の時間を設けたり、国語でも算数でも文章題をする時には音読することを勧めようと思います。

お知らせとお願い

- 冬休み中の持ち物は、着替え、帽子、ビニール袋、ハンカチ、マスク、宿題、国語の教科書、筆箱、水筒、クッキングのある日はエプロン、三角巾も持たせて下さい。持ち物の準備をする時は、なるべく本人がするか、お家の人も見届けて下さると、ありがたいです。
- 宿題が終わった人は、問題集など学習ができるものを用意して下さい。漢字ノートで漢字の反復練習などもいいと思います。国語の教科書や漢字のお手本などがあるといいです。
- 手洗いを励行していますので、毎日必ずハンカチの持参と替えもご準備下さい。
- ハンカチ、マスク、鉛筆、消しゴム、定規などあらゆるものが床に落ちている状態です。記名してあると持ち主に返せますが記名なしがほとんどです。持ち物の整理整頓ができることも大切です。**どうか全ての持ち物に記名をお願いします。**

育児情報

弐北町内保、小、中連携事業「たくましく心豊かな弐北っ子」でも「読書時間を増やしましょう」が言われていました。学童でも絵本の読み聞かせを継続していますが、集中して聞ける子とそうでない子がいます。小学校に入った途端「自分で読みなさい」になってはいませんか？大人でも読んでもらうと心地よくなります。まずは読んでもらう心地よさと読む事の楽しさを親子で実感してみましょう。読み聞かせの効果を科学的に証明された文書をご紹介します。

読み聞かせは「心の脳」を育てる

読み聞かせは子どもに対して様々な良い効果をもたらすとされています。では、なぜそのような効果が生じるのでしょうか。しかし、これまで科学的な検証は行われていませんでした。

どうやって調べるの？

近年の脳科学技術の進歩によって、人の脳活動を可視化して調べることが出来るようになりました。読み聞かせをしてもらっている時に、子どもの脳のどこが活動しているのかを調べると、子どもにどのような影響を与えるかを知ることが出来ます。

前頭前野でなく「心の脳」が活動していた

従来、読み聞かせは賢い子どもを育てるという知育的効果が強調されていました。ですから、子どもが読み聞かせをしてもらっている時、知能に関係する前頭前野が活動するのではないかと考えていました。しかし、実際には前頭前野は活動していませんでした。

では、どこが活動していたかを機能的MRIで調べたところ、辺縁系、つまり感情・情動に関わる脳の領域が活動していました。感情・情動、すなわち喜怒哀楽は心の動きに関わる脳なので「心の脳」と呼ぶことにします。

「心の脳」の役割

「心の脳」理性以前に私たちの行動をコントロールする根源的な脳です。動物でも人でも、行動の基本原則は「好きなことはやる」けれど「きらいなことはやりたくない」です。「楽しい うれしい」は行動のモチベーションを高めますが、「怖い、嫌だ」は行動を停止させます。喜怒哀楽をしっかりと感じられないと、しっかりとした行動がとれません。

「心の脳」は育つの？

読み聞かせのもう一つの大きな効果は「親子の絆作り」にあります。読み聞かせを通して子どもの様子をしっかりと見る習慣がついてきます。そして普段の生活の中でも子どもをしっかりと見る事は、子どもの小さな変化に気づき、親を褒め上手にしてくれます。褒められた子どもは嬉しいと思い、子どもの成長を発見して褒めた親自身も嬉しくなります。親と子供の間「ほめてうれしい」「ほめられてうれしい」は良い親子関係を作りだし、正のスパイラルとして働いて「親子の絆」を作ることに繋がるのです。

まずは読み手が楽しみましょう

講演会で必ず出る質問があります。「どんな本がいいですか」「いつ、何分読めばいいですか」。まず読み手が楽しんでください。楽しい事はモチベーションを高めますが、義務に思っ楽しくなくなると長続きしません。読み手がいいと思う本をまず気楽に読みましょう。保護者の方は忙しいですから、ちょっと暇がある時でいいのです。途中まででも、途中からでも、全部読む必要はありません。

赤ちゃんにも読み聞かせを

赤ちゃんにも是非読み聞かせをしてあげて下さい。赤ちゃんはことばも分からないのだから読み聞かせをする意味がないと思う人がいるかもしれませんが、しかし、イタリアの脳科学者と日立製作所基礎研究所で行った共同研究では、生後5日目の赤ちゃんに①母国語を聞かせる、②逆回しにして意味の分からないものを聞かせる、③雑音を聞かせる実験を行った結果、母国語を聞かせたときの反応が一番強く出たのです。これはことばの分かっている子どもたちが集中して聞いている時と同じ脳の働きをしていたという結果が出ています。言葉や意味が分からなくても、しっかり聞いているのです。

ましてや、お腹の中にいる時から聞いているお母さんの声は特別です。生後すぐにもお母さんの声は他の音とは違って必ず脳に届きます。だから、背中からでもいいですし、別のことをして聞いていないようであっても、読んであげて下さい。さらに読み聞かせは、読み手自身の脳も活性化し、脳が健康になります。ぜひ読んであげて下さい。